幸せの黄色い道 ―三宅精一(みやけせいいち)―

点字ブロック

♪ 足元(あしもと)を見てごらん　黄色い道しるべ
あなたの歩み　てらす
あいをつなぐ　点と線 ♪

これは点字ブロックの歌です。点字ブロックとは、道路にある黄色いでこぼこした道のことです。じつはこの点字ブロックは岡山県の三宅精一さんによって発明(はつめい)されたのです。

三宅精一さんは、せんそうの終わりごろ、倉敷(くらしき)市で生まれました。ものがなく、みんなが苦しい生活を送っていた時代でした。そんなときに生まれた三宅さんは、子どものころから家族を大事にするやさしい人でした。おとなになると、多くの人によろこんでもらいたいという思いで、生活の役に立つ発明をたくさんしました。

三宅精一　安全交通試験研究センター提供

あるとき、三宅さんは病気で目が見えなくなりそうになっていた岩橋さんに出会いました。二人ともセントバーナードという大きな犬が大すきで、あっという間になかよくなりました。三宅さんは、岩橋さんとの話の中で、目が見えなくなっていくことで大きくなっていく不安な気持ちや、目の不自由な人にとって足の感覚がとても大切であること、耳が目のかわりになることなどを聞きました。岩橋さんの話に一つ一つうなずきながら聞くうちに、この人のために、また世界中の目の不自由な人のために自分にできることはないかと考えはじめました。

ある日、三宅さんは目をつぶって道路のそばに立ち、もし自分の目が不自由だったらどうだろうと考えていました。目をつぶっていると、前をよこぎる自動車の速さがいつもよりおそろしく感じられました。自分の立っているところがどこなのか、きけんなところと安全なところはどこなのか、さっぱり分からなくて、不安な気持ちが大きくなっていきました。

そのとき、大きなクラクションの音がひびきました。目の前にいた、白いつえを持

イラスト　森　邦生氏　提供

った目の不自由な人がすぐ前の道路をわたろうとしたところ、走ってきたタクシーがぶつかりそうになり、あわててクラクションをならしたのでした。目の不自由な人はこわくてその場にうずくまっていました。三宅さんも、それを見ていておそろしくなりました。

目の不自由な人もひとりで自由に歩けるようにはできないだろうか。三宅さんは考えつづけました。岩橋さんにもたくさん話を聞きました。そして、岩橋さんの「目の見えない人は、こけと土とのさかいでも、くつをはいたままで分かる。」という話を聞き、（これだっ。）と、思いました。

「歩道と車道のさかいを、足のうらを通して分かるようにすればいいんだ。」

こうして世界ではじめての点字ブロックは、三宅さんによって誕生し、盲学校の近くの岡山市中区原尾島のおうだん歩道にせっちされました。

はじめての点字ブロックが誕生してから、三宅さんは点字ブロックを日本中の道路

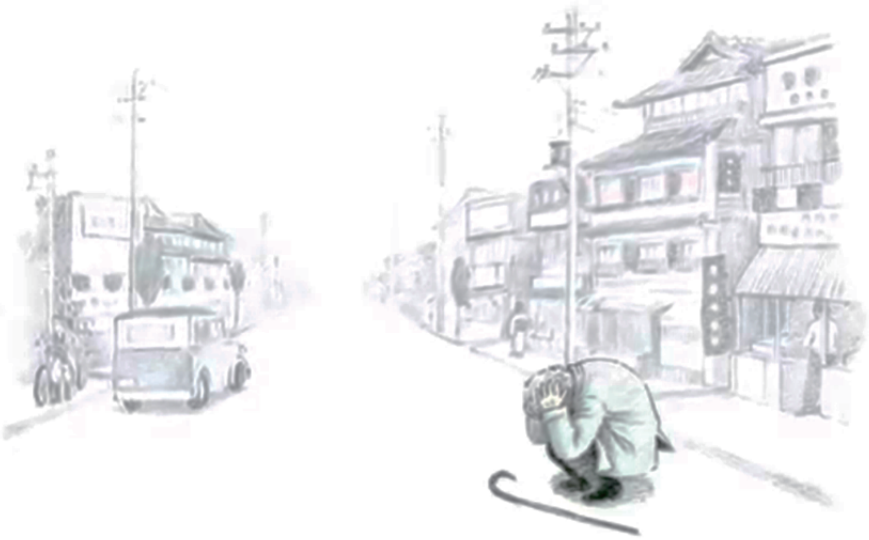

イラスト　森　邦生氏　提供

に広げていくよう、たくさんの県をたずね、せっちしてもらえるようにはたらきかけました。そして、目の不自由な人もひとりで自由に歩けるようにしたいという三宅さんのあつい思いがつたわり、点字ブロックはだんだんと日本中に広まっていきました。

今では点字ブロックのよさは、日本だけでなく世界中につたわり始め、「幸せの黄色い道」は、今、世界の国々へと広がりつつあります。

※点字ブロックの歌詞

CD「幸せの黄色い道　点字ブロック発祥の地　岡山」（製作　点字ブロック発祥の地モニュメント設置実行委員会）より一部抜粋

点字ブロック発祥の地モニュメント（平成22年3月18日建立）

安全交通試験研究センター提供

岡山県郷土教材道徳科学習指導案　第４学年　**「幸せの黄色い道　－三宅精一－」**

１　関連的な道徳の学習のテーマ　相手の思いを想像して

２　関連的な道徳の学習のねらい

道徳科の時間を要として、国語科、総合的な学習の時間との関連を図りながら学習を進めることで、相手のことを思いやり進んで親切にしようとする態度を養う。

３　構想図（９月）

【日々のくらし】

帰りの会等
やさしさみつけ

【道徳科】　【各教科等】

国語科
「『伝え合う』ということ
（手と心で読む）」
点字の誕生について読む。 支援１

総合的な学習の時間
「みんなにやさしい町」
バリアフリーについて調べたり、手話体験、アイマスク体験などをしたりすることを通してみんなにやさしい町について考える。支援２

道徳科
主題名　相手の身になって
内容項目　B　親切、思いやり
教材名　「幸せの黄色い道 －三宅精一－」
ねらい　みんなに親切にするために大切な心について考える中で、自分のこととして相手の思いを考えると人に親切にできるようになることに気付き、相手の思いを考えながら、進んで親切にしていこうとする態度を養う。 支援３

自分たちの町をもっとみんなに優しい町にするために自分たちにできることを実践し、「思いやりの町プラン」を発表する。
支援４

帰りの会等
関連的な道徳の学習を振り返り、人に親切にすることについての自分の変容をまとめる。 支援５

【児童の意識】

・ルイ＝ブライユは目の不自由な人のために点字を作ったんだ。すごいな。
・点字についてもっと知りたいな。

・自分たちの町にもいろいろな人に優しい工夫がたくさんあるんだな。
・身体が不自由だと、道路を歩くだけでも不安な気持ちになるんだな。

・学級の友達に親切にできるようになってきた。もっとたくさんの人に親切にできるためにはどんな心を大切にすればいいのだろう。
・自分のこととしてその人の思いを考えると、人に親切にできるようになるんだな。

・町のみんなが困っている人の気持ちを考えると、親切でいっぱいの町になりそうだな。

・相手の思いを考えて親切にすることができるようになってきた。身近な人だけでなく、町で会った人にも同じように親切にしていきたいな。そして、みんなに優しい町にしていきたいな。

４　教師の支援

支援１－道徳的価値に対する構えに高めるために

国語科「『伝え合う』ということ（手と心で読む）」の学習で、ルイ＝ブライユが点字を発明したことや点字のおかげで目の不自由な人たちが字を読むことができるようになったことなどを読み取ることを通して、様々な人が暮らしやすいように工夫された道具や施設などに興味をもつことで道徳的価値に対する構えが高まるようにする。

支援２－心を耕し、課題意識を高めるために

総合的な学習の時間「みんなにやさしい町」で、町の中にあるバリアフリーについて調べたり、手話体験、アイマスク体験などの体験活動をしたりすることを通して、「みんなにやさしい町」とはどういう町かについてまとめる。その後、自分たちの町はみんなでまとめた「人にやさしい町」になっているかどうかという視点で自分たちの町を調べていく。その活動を通して、自分の町の人に優しい工夫に気付くと共に、「みんなに優しくできるためにどんな心を大切にすればよいのだろう」という課題意識を高めたところで道徳科の授業に入るようにする。

支援３－それまでに抱いた気持ちを道徳科で語るために

導入では、総合的な学習で学んだことを振り返り、「みんなに優しい町はどんな心を大切にするとできるのだろう」と思ったことを想起させ、「みんなに優しい」ということはみんなが親切にできる町だということに気付き、「親切にできるために大切な心を見付けたい」という課題意識をもたせる。

中心場面として、目の不自由な人が自動車にひかれそうになりうずくまったのを見たときの三宅さんが考えたことを取り上げる。自分も目をつぶって交差点に立ち、目の不自由な人になったつもりで考えていたからこそ、目が不自由な状態で道路を歩くことに恐怖を感じ、何とかしたいと思うようになったことを捉えさせたい。その際、三宅さんが目の不自由な人の気持ちを詳しく知ることができた理由について問うことで、総合的な学習での体験で感じた身体の不自由な人の思いを想起し、自分との関わりで、人を思いやる心について考えられるようにする。

展開後段では、展開前段で考えたことをもとに、自分のこととして相手の思いを考えて親切にできた体験についてワークシートに記入して発表するようにすることで、人に優しく接することができたときは、自分のこととして相手の思いを考えていたことを確かめることができるようにする。

支援４－道徳科で捉えたことを確かにするために

道徳科で捉えた「自分のこととして相手の思いを考えて親切にしたい」という思いをもとに、総合的な学習「みんなにやさしい町」では自分たちの町をもっとみんなに優しい町にするために自分たちにできることを話し合う。道具や設備を作ることは自分たちには難しいが、相手を思いやる声かけや手助けなら自分たちにもできそうだと気付き、実践してみる。実践の中で、相手の思いを自分のこととして考えて親切にする方が、より相手のためになる親切となっていることを確かめていくことができるようにする。そして、自分たちの町をもっと「みんなにやさしい町」にするために今の自分たちが大切にしたいことをグループごとに「思いやりの町プラン」としてまとめて発表する。

支援５－自分の変容に気付き意欲的になるために

帰りの会で、これまでの関連的な道徳の学習全体を通して親切にすることについての自分を振り返る。自分の中の人を思いやる心や実際に人に親切にしたことなどの視点から、自分の人を思いやる心の変容を振り返りカードにまとめることで、人を思いやる心が深まってきたことに気付くことができるようにする。

5　要となる道徳科

(1) 主題名　相手の身になって

(2) 主題設定の理由

①内容項目について

中心とする内容項目は、B　親切、思いやり「相手のことを思いやり、進んで親切にすること。」である。望ましい人間関係の構築には互いが相手に対して思いやりの心をもって接することが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。

中学年では、相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして考えることによって相手のことを思いやり、親切な行為を自ら進んで行おうとする態度を養いたいと考える。

②児童の実態について

国語科と総合的な学習を通して児童は、体験を通して身体の不自由な人の思いや苦労を感じたり、町の中にあるいろいろな立場の人が住みやすくなる工夫について調べたりしている。しかし、みんなが住みやすい町にするために設備を整えたり、道具を作ったりした人の思いまではまだ考えることができていない。そこで、道徳科で点字ブロックを生み出した三宅精一さんの思いやりの心を考えることで相手のためになる思いやりの行為には、自分のこととして相手の思いを考えることが必要であることに気付くようにしていきたい。

③教材について

この教材は、発明家でもあった三宅精一が、目の不自由な人が自由に道路を歩くことができるようにと考えて点字ブロックを発明した話である。自ら目をつぶって道路を歩いたり、目の不自由な人の生活についての話をたくさん聞いたりしながら点字ブロックをつくった三宅精一の思いを考えることを通して、相手の困っている状況や思いを考えることで思いやりの気持ちが深くなり、親切にすることができるようになることに気付かせたい。

◇板書例

みんなにやさしい町
どんな心が大切？
「幸せの黄色い道」－三宅精一－

写真

めあて
親切にするために大切な心について考えよう。

目をつぶって道路を歩いてみようと思ったとき

・目の不自由な人の気持ちをわかりたい。
・自分が目の不自由な人になったつもりで考えないといい物ができない。

目の不自由な人がしゃがみこんだところを見たとき

・きけんすぎる。なんとかしなくてはいけない。
・目が不自由だと歩くことがこんなにこわいのか。
・みんな目の不自由な人のことを考えていない。
・目の不自由な人が安全に道ろを歩けるようにしたい。
・目の不自由な人の役に立ちたい。

目の不自由な人がしゃがんだ場面の挿絵

◇自分のこととして相手の思いを考えると相手の気持ちが分かりもっと親切にできるようになるんだな。
○自分のこととして相手の思いを考えて親切にできたこと

◇参考

三宅精一（1926～1982 年）。倉敷市に生まれる。点字ブロックを開発し、1967 年に岡山市原尾島の交差点に世界で初めて点字ブロックを設置した。その後生涯のほとんどを点字ブロックの普及に費やし、私財を投じて点字ブロックを各地に設置していった。

参考　ＣＤ「幸せの黄色い道～点字ブロック発祥の地　岡山～」
「白浪に向いて　三宅精一を語る」社会福祉法人日本ライトハウス　理事長　岩橋英行著

(3) ねらい

みんなに親切にするために大切な心について考える中で、自分のこととして相手の思いを考えると人に親切にできるようになることに気付き、相手の思いを考えながら、進んで親切にしていこうとする態度を養う。

(4) 展開

○は基本発問　◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1　人を大切にできる心について話し合い、めあてをつかむ。	○　総合的な学習でみんなに優しい町について考えて、どんなことを思いましたか。 ・人に優しくできる自分になりたい。 ・もっとみんなに優しい町にするにはどうしたらいいのだろう。	・総合的な学習を通してもった思いを問うことで、課題意識を想起しやすくする。
親切にするために大切な心について考えよう。		
2　「幸せの黄色い道　－三宅精一－」を読んで話し合う。	○　三宅さんは目をつぶり道路を歩いてみようとした時どんなことを考えていたのでしょう。 ・目の不自由な人の気持ちを分かりたい。 ・自分が目の不自由な人になったつもりで考えないといけない。 ◎　目の不自由な人がしゃがみ込んだのを見て、三宅さんはどんなことを考えたのでしょう。 ・危険すぎる。何とかしなくては。 ・みんな、目の不自由な人のことを全然考えていない。 ・目が不自由な状態で道路を歩くのは、こんなにおそろしいものなのか。 ・目の不自由な人が安全に歩けるようにしたい。	・教材への導入時に点字ブロックの歌を聞くことで、点字ブロックに興味をもちやすくする。 ・自分が目をつぶって道路を歩こうとしたときの三宅さんの気持ちを考えることで、相手の状況を理解しようとする思いの大切さに気付きやすくする。 ・目の不自由な人がしゃがみ込んだのを見たときの三宅さんの思いをワークシートに書くことで、自分の考えを表しやすくする。 ・みんなに親切にするために大切な心についてグループで話し合うことで、三宅さんが自分のこととして目の不自由な人の思いを考え深く理解したことについて捉えやすくする。
自分のこととして相手の思いを考えると、相手の気持ちが分かりもっと親切にできるようになるんだな。		
3　今までの自分を振り返る。	○　自分のこととして相手の思いを考えて親切にできたことがありますか。 ・下級生がけがをして、もし自分だったら重い物を持つのが大変だなと思ったからランドセルを持ってあげた。	・日々のくらし、総合的な学習等、具体的な場面を提示し、これまでの自分の思いやりの心を見つめることができるようにする。
4　教師の話を聞く。	○　先生の話をします。	・自分のこととして相手の思いを考えて親切にできた教師の体験を聞くことで意欲を高める。
自分のこととして相手の思いを考え、普段の生活でも人に親切にしていきたいな。		
評価の観点	・相手の思いを自分のこととして考えることで人に親切にできるようになると気付くことができたか。 ・自分のこととして相手の思いを考えながら、人に親切にしていきたいという意欲を高めることができたか。	